

手柄山スポーツ施設整備基本計画【概要版】

1. 計画の背景

手柄山中央公園内の各施設は老朽化が進んでいるため、園内施設の再配置を中心とする新設、改修等の中長期的な整備方針を示した「手柄山中央公園整備基本計画」を平成29年1月に策定しました。

これを受け、公園北西部エリアにおいて、老朽化が著しい総合スポーツ会館の機能を移転させる新体育館や全天候型屋内50m、25mプールを新設する予定で、これら施設の整備の基本指針となる「手柄山スポーツ施設整備基本計画」を策定し、本市スポーツの拠点に相応しい施設整備を目指します。

2. 基本コンセプト

手柄山中央公園整備基本計画における整備コンセプトである「感動と笑顔あふれる憩いの交流空間の創出」や姫路市スポーツ推進計画の基本理念である「誰もが気軽にスポーツに関わりを持てる、生涯スポーツ社会の実現」を踏まえ、次の3つを新たな手柄山スポーツ施設の基本コンセプトとします。

●多様なニーズに対応できる拠点性の高いスポーツ施設

手柄山中央公園には、球技、競泳、武道など多様なスポーツに対応できる施設が集積していることから、この立地特性を活かし、新たな体育館及び市民プールが既存のスポーツ施設の機能を補完・拡充することで、公園内のスポーツ施設が一体となって「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」のすべてを実現できる拠点性の高い環境を整えます。

●手柄山中央公園の玄関口となるスポーツ施設

JR 姫路・英賀保間の新駅整備構想では、陸上競技場北側に新駅が設置されることが計画されており、手柄山中央公園の新たな玄関口となります。よって、新たな体育館及び市民プールを手柄山中央公園の玄関口とするべく、手柄山中央公園の構成施設として景観上シンボル性の高い施設とし、公園内の他の施設へのアクセス性を確保するなど、利便性の向上に配慮します。

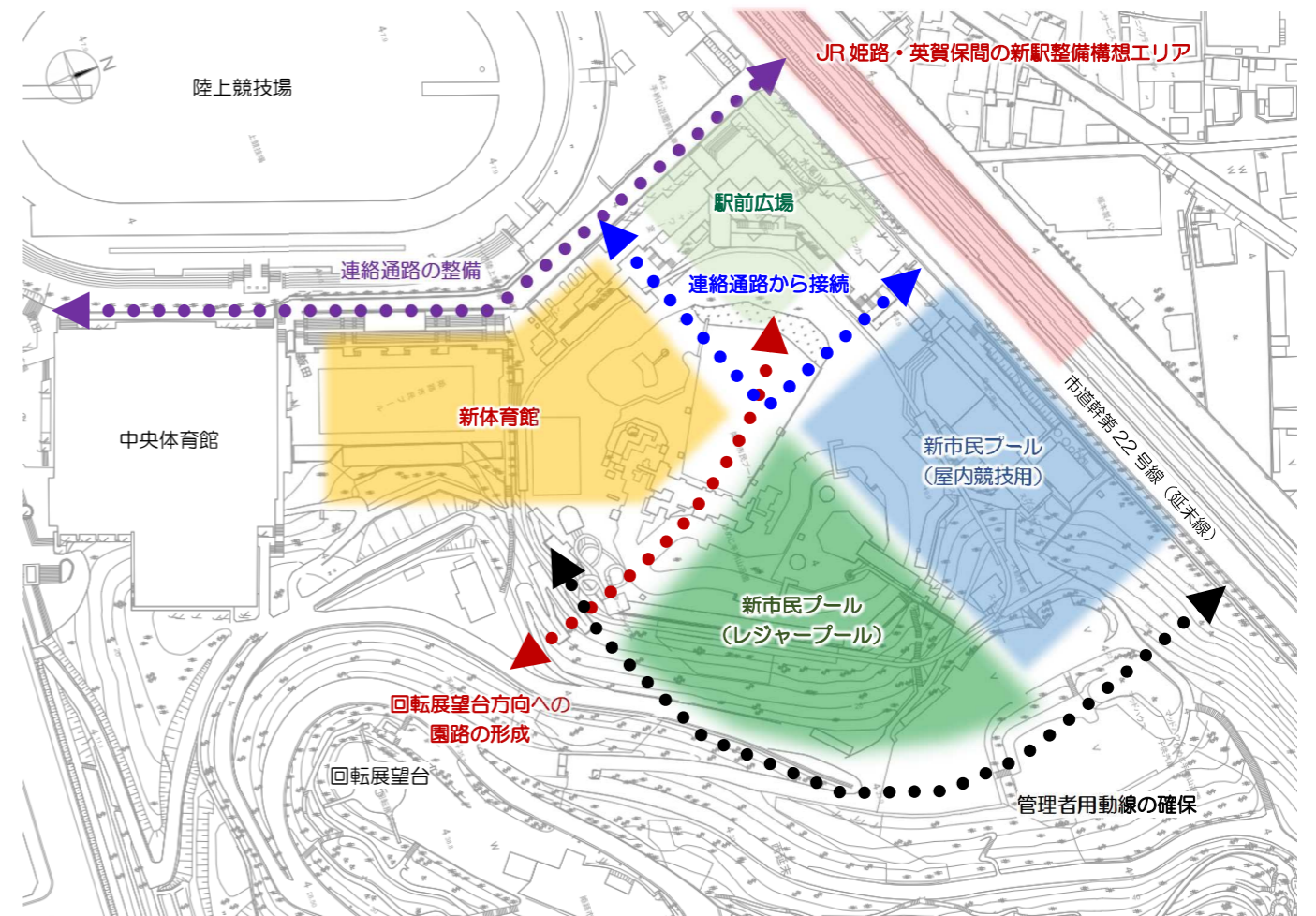
●レクリエーション空間として機能するスポーツ施設

新たな体育館及び市民プールについては、子どもから高齢者まで様々な人が気軽に訪れることができ、また、園路を散策するなど、公園を楽しみながら健康づくりができるレクリエーション空間として機能する施設とします。

3. 施設整備方針

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ①中央体育館との機能分担の見直し | ⑤人々がふれあい、スポーツに興味を持てる施設 |
| ②県立武道館との機能分担 | ⑥高齢者及び障害者に配慮された施設 |
| ③競技用プールの充実 | ⑦環境への配慮や災害時に対応できる施設 |
| ④中央体育館との連携によるスポーツの振興 | ⑧新駅設置に伴う立地環境を活かした施設 |

4. 計画の概要



●ゾーニング計画

手柄山スポーツ施設は、現在の市民プールの場所に整備し、新体育館は新駅から近い場所に中央体育館と2館並ぶかたちで配置します。また、屋内競技用プールは市道幹第22号線（延末線）沿いに、レジャープールは両施設に挟まれるかたちで配置します。

●動線計画

新体育館と屋内プールは新駅から直接アプローチできる位置にエントランスを設置します。また、観客のアプローチと選手や関係者のアプローチを分離することで、動線が交錯しないようにします。

その他、新駅から連絡通路を整備し、南方向へのメイン動線を確保するとともに、回転展望台のある山頂方向への動線も確保します。

5. 各諸室の機能と想定規模

現在、想定している主要な諸室とその想定規模は次のとおりです。

●新体育館

諸室等	想定規模等
メインアリーナ	<ul style="list-style-type: none"> バレーボール3面、バスケットボール3面、バドミントン12面等、3,000㎡(68m×42m)程度 付帯施設として選手控室、役員室、更衣室、器具庫を隣接 観客席3,500席以上(1階:可動式観客席1,100席程度、2階:固定式観客席2,400席程度)
サブアリーナ	<ul style="list-style-type: none"> バレーボール1面、バスケットボール1面、バドミントン4面等、1,000㎡(44m×25m)程度 観客席200席程度
卓球場	<ul style="list-style-type: none"> 卓球台10台を設置できる規模(500㎡程度)
柔道場	<ul style="list-style-type: none"> 4面配置(1,000㎡程度) 観客席120席程度
剣道場	<ul style="list-style-type: none"> 4面配置(1,000㎡程度) 観客席120席程度
弓道場	<ul style="list-style-type: none"> 近的:10人立ち(1,000㎡程度)、遠的:6人立ち(1,000㎡程度) 観客席 近的:120席程度、遠的:100席程度
トレーニングルーム	<ul style="list-style-type: none"> 300㎡程度 競技者、一般利用者ともに対応
スタジオ(多目的室)	<ul style="list-style-type: none"> 200㎡程度 エアロビクス、ダンス、ヨガなど多目的に利用 少人数利用に対応できるように可動式間仕切りにより分割できる構造
ランニングコース	<ul style="list-style-type: none"> 走路幅3m程度(1周200m程度) 日頃の健康増進や大会時のウォームアップに利用
キッズコーナー	<ul style="list-style-type: none"> 50㎡程度 幼児の遊び場、待機場所
レストラン・コンビニエンスストア	<ul style="list-style-type: none"> レストラン(100席程度)、コンビニエンスストア 日用品の買い物や飲食ができ、会話や交流できる場 体育館利用者以外の公園利用者も利用
エントランスホール・ロビー	<ul style="list-style-type: none"> スポーツに関する資料展示など情報発信・情報収集機能をもつオープンスペース
会議室・研修室・更衣室・ロッカー・シャワー室・器具庫・倉庫・医務室・管理関係諸室など	

●新市民プール

諸室等	想定規模等
競技用プール	<ul style="list-style-type: none"> 日本水泳連盟公認の50m国内一般プール・AAに対応 全天候型屋内50mプール(10レーン、水深2m以上、1,250㎡程度)及び25mプール(300㎡程度) 観客席2,500席以上
レジャープール	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生及びファミリー層を主なターゲットとし、年間利用者数10万人以上を目指す(敷地面積:8,500㎡程度)
エントランスホール・ロビー	<ul style="list-style-type: none"> スポーツに関する資料展示など情報発信・情報収集機能をもつオープンスペース
会議室・研修室・更衣室・ロッカー・シャワー室・器具庫・倉庫・医務室・管理関係諸室など	

6. イメージパース

●イメージ①



●イメージ②



●イメージ③



7. 事業手法

本市では、一定規模以上の公共施設整備事業については、PPP/PFI手法(官民連携手法)の導入に関して優先的検討を行うものとしており、民間の持つノウハウ、技術を最大限活用できる事業手法を採用します。

また、本施設の整備、維持管理・運営に係る費用は、本基本計画を基に類似施設等を参考に算出するとともに、今後、施設の運営等に関して民間事業者へのサウンディングを実施するなど、本市の財政状況も勘案しつつ、精査を重ねていくものとします。

8. 事業スケジュール(予定)

平成31年度(2019)	平成32年度(2020)	平成33年度(2021)	平成34年度(2022)	平成35年度(2023)	平成36年度(2024)	平成37年度(2025)
事業者募集資料の検討・作成		事業者募集 選定・契約	事業実施(設計・施工・開業準備)			供用開始